

議員特別研修実施報告書

報告議員名	奥山 豊和	報告日	平成31年4月11日
調査研究・研修等 名 称	地方議会研修会in北上市「議会改革第2ステージを考える 東北からチーム議会を目指して」		
実 施 日	平成31年 2月 7日		
会 場	岩手県北上市「ブランニューキタカミ」		
調査研究・研修等の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>基調講演</u> ・北川 正恭 早稲田大学名誉教授 2. <u>先進事例報告</u> ・高橋 穂至 岩手県北上市議会議長 ・ピアンキ アンソニー 岐阜県犬山市議会議長 ・川上 文浩 愛知県可児市議会前議長 3. <u>議長セッション</u> ・佐藤 淳 青森中央大学准教授 4. <u>議会事務局セッション</u> ・中道 俊之 岩手県滝沢市議会元事務局長 ・小原 北上市議会議事課長 ・岩崎 茨城県取手市議会事務局長補佐 ・佐山 宮城県柴田町議会事務局主査 		
調査研究・研修等の 成果と感想	<p>「議会改革第2ステージ」とは、議会基本条例の制定を経て、議員個々の意識改革と議会の機能向上によって議会全体で成果を出していく時期にきているということ。</p> <p>チーム議会の一員である議会事務局の在り方については、「議員を補佐する事務局」ではなく「対等な関係」であるべきで、議長のリーダーシップにより「フラットな関係で対話を重視」していかなければならない。</p> <p>議案や政策課題に対し、個々の議員が単純なYesかNoかという意味表示をするのではなく、議員間討議を重ねることによって、最初はバラバラだった意見が話し合いによって次第に落としどころが見えてくる。議会としてまとめられなければ、それは「行政のやりたい放題」になってしまう。</p> <p>可児市議会では、議長マニフェストにより議会運営でさえもサイクルに乗せていて、今後誰が議員になろうが議会の意思は引き継がれていく。</p>		

	<p>会派よりも、委員会主導の徹底が重要。委員会が全会一致でまとめた意思是「バズーカ砲」になり得るということで、絶大な権限を持つ執行部の「監視・追認機関におとしめられていた」議会が、議会本来の役割に気付き行動に移し始めたことが議会改革第2ステージであり、それによって執行部との間に「緊張感」が生まれていることこそ二元代表制の本質だと感じた。</p> <p>私たち議会は、組織体として何をやっているのかという「議会活動全体の見える化」を徹底的に組織的に進めていくことこそ、議員のなり手不足、選挙をやっても低投票率という根本的な課題解決の糸口になっていくように思う。</p> <p>例え人まねの改革だろうが、できると思ったことは少しでも行動に移していく。小さな一步の積み重ねが大切だということを突き付けられた有意義な研修会だった。「チーム議会」としてまとまっていくことの重要性について、改めて理解を深めることができた。</p>
--	---

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。